

永遠、無限

2025 年 9 月 1 日

読者の皆さん

今年の1月1日、スウィートサプライズ(嬉しい驚き)で、私たちはグルであるグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダから、一つの問いを投げ掛けられました。「永遠と無限の違いは何でしょうか？」

作家である私にとって、この問いに答えるために言葉の意味に注目するのは、自然な反応だったと思います。「永遠」という言葉が時間に関わるものであることは、私の知るところでした。永遠とは、終わりのない時間、途切れることのない時間、始まりも終わりもない時間です。一方で「無限」という言葉は、より広い領域に及びます。無限とは、限界のなさ、境界のなさ、宇宙のような果てしなさです。時間に関して用いられることもあります、多くの場合、「無限」は空間、あるいは物事の量や広がりを表す際に用いられます。

しばらくの間、私はこの答えに満足していました。二つの言葉の意味の違い(少なくとも主要な違いの一つ)を特定したことで、グルマーイの問いに十分答えたと感じていたのです。しかし、何かが解決されずにマインドの奥に残っていたのでしょうか。というのも、最近になって、再びこの問いについて考えるようになったからです。私は不思議に思いました。なぜグルマーイは、この問いを投げ掛けたのでしょうか？ 永遠と無限の違いを見分けることで、私たちは何を学べるのでしょうか？

そこで、私は調べ始めました。科学者である父に相談すると、彼は私が何度も繰り返す(そして初歩的過ぎるに違いない)質問に辛抱強く対処してくれました。その過程で、これを読んでいる物理学者なら誰もが既によく知っていることを、私は理解するに至りました。それは、ある状況においては空間と時間の区別が消える、ということ——永遠が無限となり、無限が永遠となる状況——です。

その状況とは、「光」です。

科学者たちは、光の速度においては、時間は停止し、距離はゼロに収縮することを発見しました。典型的な例は夜空です——漆黒の闇に星々が満ちています。宇宙の最も遠い幾つかの星々から地球に光が届くまでには、何十億年もの歳月がかかることがあります。つまり、私たちがその光を目で捉える時には、その星は既に移動している、もしくは完全に消滅してしまっている可能性さえあるのです。従って、夜空を見上げることは、過去を見ていることにほかなりません。

では、この状況を「光」の視点から見たらどうでしょうか？ 現実とは異なるでしょう！ というのも、光は私たちのように時間や距離を経験しません。数十億光年のかなたの星から光が放たれたその瞬間、光は同時に——光の視点においては——ここ地球にあり、私たちの目を通して受け取られているのです。言い換えれば、光は時間を橋渡しします。光は空間を収縮させます。光は永遠です。光は無限です。

私は、決して物理学者や数学者ではありません。でも、そのような光や空間、そして時間についての事実を知った時、それらは非常に難解でありながら、同時に何か深く直感的なものがあることに気づきました。シッダ・ヨーガの道において、光は神の姿であると、私たちはグルマイーから学んできました。私たちは光からやって来て、最終的には光に溶け込みます。光は、グルが私たちの内側にともすものです。光は、私たちの周りの世界で私たちが他者の中に認識するものです。光は、私がグルマイーのダルシヤンを受け取る時に私の心に注がれ、私の心の中からあふれ出すものです。光は、私のグルマイーの夢の輪郭を和らげるものであり、それらの夢が異なるものと感じ、夢の状態と目覚めている状態双方を超越した現実のようだと感じる理由です。ですから、私は学びと体験の両方を通して、もしも、時間を止めることができるもの——空間を飛び越えることができるもの——があるとするなら、それはこの光であると分かるのです。

私が好きなグルマーイの詩の一つは、彼女の詩集『Pulsation of Love¹ 愛の脈動』の中にある「光がさんさんと降り注ぐ時」です。この詩の中でグルマーイは、光と時間というテーマを織り交ぜ、私たちにより注意深くそれらのつながりの本質について熟考することを鼓舞しています。その詩の冒頭で、グルマーイは次のように記しています。

光がさんさんと降り注ぐ時、
昨日、今日、そして永遠に、
空気は白く長い衣で覆われています。
川にはミルクが流れているようです。
地球全体が
愛の優しさに喜びます。
心もまた、
神の慈悲、神の無限の祝福に満たされて、
感謝の気持ちを表します。

あらゆる時間は神の時間であり、
そして、神の時間は永遠です。
すべての魂は自分自身の奥深い所でこのことを知っていますが、
知っていることを常に覚えているわけではありません。
感謝の気持ちは魂の本質そのものです。

あらゆる時間は神の時間であることを
覚えていないことで
あなたは良いと思えることにだけ
感謝するのです。
あなたが生まれる時、それは神に感謝する時間です。
人生が続いている時、それは神に感謝する時間です。
あなたが死ぬ時もまた、神に感謝する時間です。
常にこの光は祝福です。
この光は慈悲そのものです。

あらゆる時間は神に属しています。あらゆる瞬間が、超越への扉を開いています。これがグルマーイの教えです。

では、私たちはどのように、より絶え間なくこの気づきと共に生きることができるでしょうか？ 私たちはどのように、神の光へと繰り返し戻るような生き方をすることができるでしょうか？ 私はこの問いと考え得る多くの答えが、「あなたの時間をあなたの時間に値するものにしなさい」というグルマリーの 2025 年のメッセージの核心にあると理解しています。

今年一年を通して、私はシッダ・ヨーガの道で祝う祝祭日と、それらがいかに神の光を体験する明確な機会を私たちに与えてくれるかについて書いてきました。9月はナヴァラトリーがそれに当たります。ナヴァラトリーはインド発祥の、9夜にわたる祝祭で、今年は9月 22 日から 30 日まで行われ、10 月2日のダセーラのお祝いで頂点を迎えます。この祝祭は、至高の女神であり、神聖な光の顕現であるデーヴィーをたたえるためにささげられます。さらに、デーヴィーを光で——例えば、プージャーをささげたり、ガルバの炎の周りで踊ったりして——崇拝するのが伝統です。

もちろん、神の光を呼び起こすのに9月の終わりまで待つ必要はありません。今この瞬間にも、今日この後にも、明日、そしてその先の毎日にも、私たちはそうすることができます。グルマリーはその詩の中で、それをどのように実践できるかを示しています。私たちは思い出すことを実践し、そして感謝を実践することができます。

毎日、私たちは自分の内に、他者の中に、そして周りの世界の中で出会う、神の光のほんのわずかな表れにも気づけるように努力することができます。これらは必ずしも「大きなこと」である必要はありません。私たちはこの光を葉脈や、木の枝のしなやかな動きの中に、あるいは誰かのほほ笑みや頬を伝う繊細な涙の滴の中に垣間見るかも知れません。私たちはただ、こうした瞬間により注意深くなり、それらを(例えば、日記に)書き留め、それらに意識的に感謝を表すことが必要なのです。

今、感謝についてお話しできることを嬉しく思います。そうできることに感謝しています。なぜそう言うのでしょうか？

今日の手紙、この9月の手紙が、私が今年皆さんにお届けする最後の手紙だからです。この9カ月間、私たちが共に歩んできた道のり——グルマーイのメッセージについて、個人で、そして皆さんと共に取り組んできた**サーダナー**——を振り返るとき、私が感じるのは感謝です。感謝が、私の心の奥からあふれてくるのです。

グルマーイのメッセージ、メッセージに関連する教え（「**時間という存在の前**」など）、そして、あらゆる時間と人生に存在しているグルマーイの愛と恩恵に、私は心から感謝しています。また、シッダ・ヨーギと新たな探究者たちの**サンガム**の皆さんが、私の熟考に真摯（しんし）に向き合ってくれたこと、そしてグルマーイのメッセージを実践する自分自身の体験を共有してくれたことに深く感謝しています。

とはいえ、グルマーイのメッセージの学びと実践は続いています。今年はまだ4カ月残っており、その間にどんな洞察、体験、そして変容が訪れるのか、誰が予測できるでしょうか？ しかし、その先も——私たちがこのメッセージに焦点を当てる暦のサイクルを超えて——グルマーイの英知は生き続けます。この英知は光の音の形であり、その光を私たちが理解できる明確な音節や言葉へと形作ることです。グルマーイのメッセージは永遠であり、無限であり、常に私たちと共にあります。

ところで、皆さんは「**太陽アナレンマ**」をご存じですか？ これは、一年を通して何日も何日も同じ時刻に、同じ場所で撮影した太陽の写真を一つに重ね合わせることによって作られた図形、あるいはタイムラプス映像です。どの写真でも、太陽は同じ位置に写っているように見えますかもしれませんが、実際には太陽の位置は移動しています。これは、地球の自転軸の傾き（これにより太陽が上下に動いて見える）と、地球の軌道が楕円（だえん）形であること（これにより太陽

が左右に動いて見える)によるものです。これらの太陽の画像を合成すると、どのような形が現れると思いますか？

それは8の字で、無限の象徴としても知られています。共時的ですよ？ 私にとってこれは一つのしるしです。時間は永遠の領域でドラマを繰り広げています。私たちはどこにいても、いつでも、常に無限の曲線を描いているのです。

心を込めて

イーシャ・サーデサイ



© 2025 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹ Gurumayi Chidvilasananda, *Pulsation of Love* (S. Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1990, 2001), p. 47.